

2023. 8. 20

日本学術会議主催 学術フォーラム
SDGsの達成に資するESDカリキュラムの開発

児童生徒の行動変容に つながるSDGs教員研修とは

市瀬 智紀
本図 愛実
(宮城教育大学)

教職大学院とは？

教職大学院の目的・機能

- 1.学部からの進学者を対象とした教育機能
学部段階で教員として基礎的・基本的な資質能力を取得した者に対し、さらに、より実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新任教員の養成。
- 2.現職教員を対象とした教育機能
一定の教職経験を有する現職教員を対象に、管理職候補者をはじめとする地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダー（中核的中堅教員）の養成。

修学年限

標準2年（1年以上2年未満の短期履修コース、2年以上の長期在学コースの設定も可能）
学部での教員免許状未取得者を対象に、教職大学院に在学しつつ、併行して一種免許状の取得に必要な学部の教職科目を履修できるコースが開設されている大学院もあります。

修学要件

2年以上在学し、45単位以上修得（うち10単位以上は実習を義務化、一定の現職経験などが学部または全部の実習免除可能）

（教員養成評価機構HP）

宮城教育大学 教職大学院

構成

- ☆現職院生
15名程度
- ☆学部新卒生
35名程度

三コース

- ☆教科探究コース
- ☆特別支援・子ども支援コース
- ☆学校課題解決マネジメントコース

理論と
実践の
往還

高度専門職
として
学び続ける
教員

実践的
指導力

育成する教員像
（学位授与方針：ディプロマポリシー）

学校課題解決マネジメント 現職

学校という組織をマネジメントしていく「学校を支える力」として、地域の教育ニーズを踏まえつつ学校が直面している課題を発見し、教職員間で共有し、協働して解決できるマネジメント力を身につけることにより、学校運営及び教育活動の中核的な役割を果たすとともに、管理職・リーダーとしての資質能力を有する教員となる。

- 学校運営上自らが担うべき役割を全校的な視点から適切かつ効率的に果たすことができる
- 他の教職員とのコミュニケーションを保ち、協働に向けた協調性を持つとともに、若手教員の意見等の把握・調整ができる
- いじめや不登校の問題を理解する姿勢を学校全体で常に共有し、組織的対応と体制整備を支援できる
- 地域および保護者や学校外の専門家および関係機関との良好なコミュニケーションを保ち、信頼関係の下、連携・協働した教育活動を主導し、若手教員への助言ができる
- 教職員間の協働、保護者や地域社会・関係機関との信頼関係の下での連携により、子どもの成長を支援することができる

児童生徒の行動変容につながるSDGs教員研修とは

- ① SDGsについて多元的に考える
- ② 学校の課題解決と結びつけ、組織的な対応を考える
- ③ 児童生徒の学習意欲を高める手立てを考える
- ④ 学校の文脈において、持続可能性を探る

学校づくりの本質 持続可能な開発目標 (SDGs)

■ 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標。(その下に、169のターゲット、231の指標が決められている。)

(1)貧困	(2)飢餓	(3)健全な生活	(4)質の高い教育	(5)ジェンダー平等	(6)清潔な水と衛生
(7)エネルギー	(8)成長・雇用	(9)産業・イノベーション	(10)社会的不平等	(11)持続可能な都市とコミュニティ	(12)持続可能な消費と生産
(13)気候変動	(14)海洋資源	(15)陸域生態系	(16)平和と正義	(17)パートナーシップ	

- 普遍性** 先進国を含め、全ての国が行動
- 包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」
- 参画型** 全てのステークホルダーが役割を
- 統合性** 社会・経済・環境に統合的に取り組む
- 透明性** 定期的にフォローアップ

外務省HP

共通5領域 24単位

安全な学級・学校づくり(基礎)
安心・安全な学級・学校づくり(応用)
地域協働と学校づくり

高度化探究科目8単位

地域協働フィールドワーク

リーガルマインドによる学校づくり

学校安全と防災教育

グローバル教育課題の探究

幼年期の教育と幼保小連携・接続

2年間の学修における理論と実践の往還・有機化

共通5領域 24単位

安全な学級・学校づくり(基礎)
安心・安全な学級・学校づくり(応用)
地域協働と学校づくり

高度化探究科目8単位

地域協働フィールドワーク

リーガルマインドによる学校づくり

学校安全と防災教育

グローバル教育課題の探究

幼年期の教育と幼保小連携・接続

実践的指導力融合科目8
実践把握と実践適応論
実践適応と評価・分析論
臨床教育総合演習A・B

SDGsについて多角的に考える

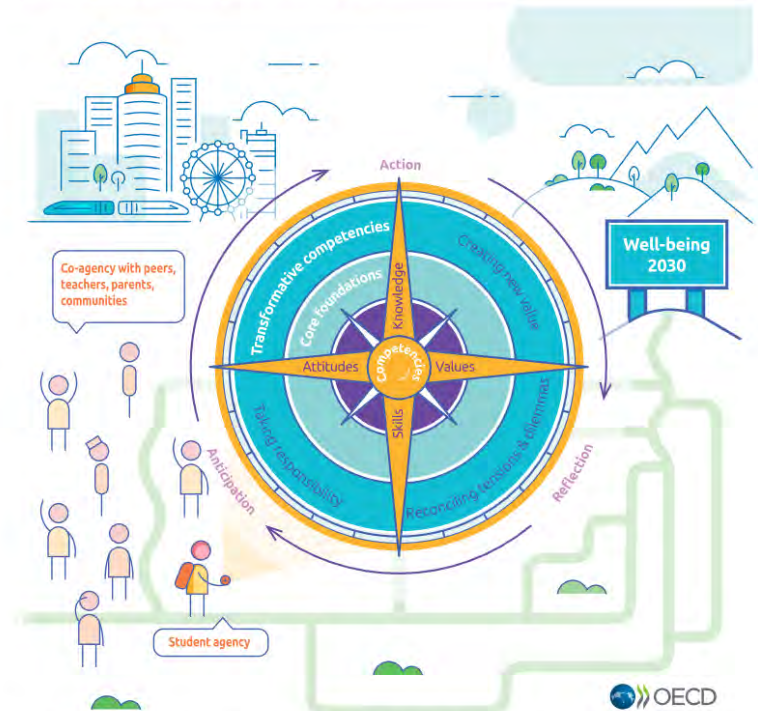
都市部・進学校
科学的なソリューションによる地球的課題の解決

東北地方
人口減少・学校統廃合

地方・地域の学校
地域貢献による地域課題の解決



The OECD Learning Compass 2030



地域協働と学校づくり 市瀬担当分

1. SDGsの探究学習を通して個人の変容・社会の変革に寄与できるのか？
2. SDGsの探究学習が教科で学ぶ知識・技能と結びつき、学力向上に寄与しているのか？
3. SDGsの探究的学習に小中高の連携（学びの連続性）はあるのか？
4. SDGsの今日的な喫緊の課題を各教科の中に浸透させることができるのか？

学校の課題解決と結びつけ、組織的な対応を考える

みなさんの所属している地域・学校・学級について考えてください。

もしあなたがSDGs(地球的規模・地域の課題解決)を導入するとしたら何ができると思えますか。教科、総合・探究、地域連携などに結び付けることが可能か。アイデアを、付箋で、前回作成のJam boardに張り付けてください。

すでに取り組みられている方は課題をふくめて、これからの方は構想としてお書きください。

Jamboard
を使って

現在の課題



こんなへ

地域資源を活用して
子どもたちを育てよう！ 社会

環境の問題

ごみの問題
(分別、廃棄場所)

交通渋滞
バスの排気ガス

街中ゆえの問題

地域のコ

教育の格差(貧乏家庭の教育格差)

公園の方(地域民への配慮)

食品ロス(何でも買える、捨てられる環境)

神社



伝統について知ろう！

商店街

伝統的な七夕飾りに参加しよう！
お屋さんに取材してみよう！

地名の由来や歴史ある校歌



土井晩翠先生について知ろう！

理科

川

きれいな川として表彰！
総合の学習で調べよう！

良さを見直そう！

・自分たちの住んでいる地域には
自慢できるところがたくさん！

A教諭

B教諭

市における

SDGs学習



課題

外来種
沼の水質

収集・分別

不法投棄

学校教育活動

国語

3年：調べて書こう わたしのレポート
4年：調べたことを報告しよう
5年：動物たちが教えてくれる海の中の暮らし
6年：イースター島にはなぜ森林がないのか
6年：町の幸福論

社会

3年：調べて書こう わたしのレポート
4年：住みよい暮らしを作る 水はどこから
4年：郷土の伝統と文化
4年：特色ある地域の暮らし 〇〇市
5年：私たちの生活と環境 環境を守る
6年：世界の中の日本

総合

3年：新田の自然を知ろう
4年：〇〇沼の保全活動を知ろう
5年：新田の自然を守ろう
6年：未来新聞

道徳

C 伝統と文化の尊重
国や郷土を愛する態度
D 生命の尊さ・自然愛護
感動・畏敬の念

理科・生活科

町探検 生き物を育てよう
環境教育 水溶液の性質

ホールエリアとの関連

社会教育
クリーン作
業

CSとの
連携

授業参観
総合
まとめ発表

ゲスト
ティー
チャー



広報誌
ToMEでの
呼びかけ



商業施
設への
掲示

教育委
員会

大学

宮城県
環境対
策課

伊豆沼・内
沼環境保全
団体

専門機関からの助言
成果物の検証

子供たちに身に付いた力

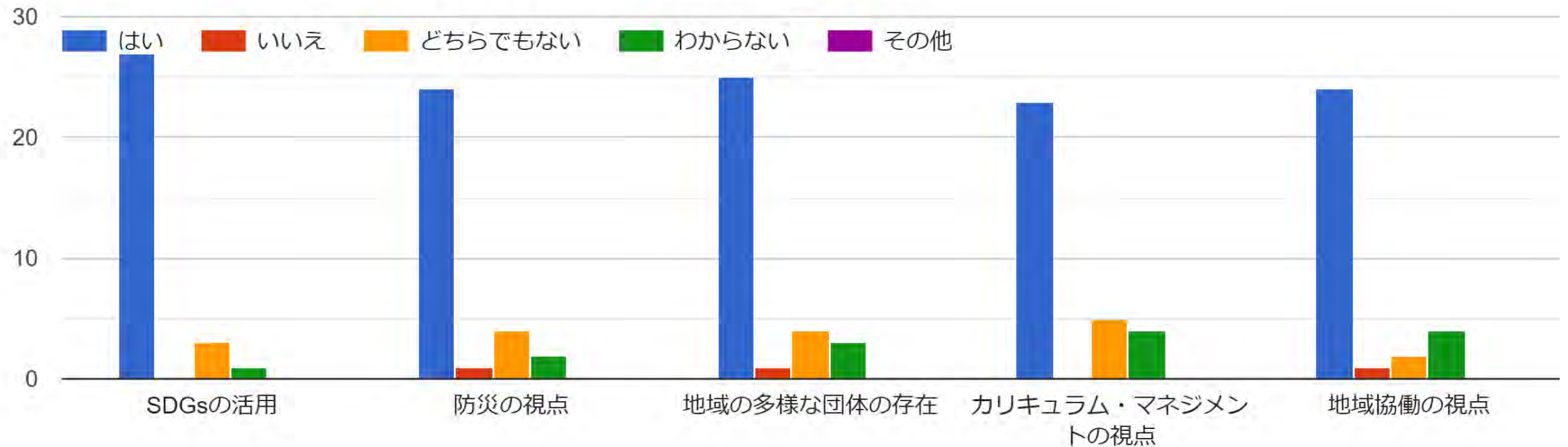


子供たちの力をさらに伸ばすには



身に付いた力を集団の中で
どう生かしていくか

Q4 授業全体をとおして、以下の点について、学校づくりにおける新たな視点が得られましたか



☆ 課題を設定できる力
☆ 教科を応用する力

☆ 日常生活と結びつける力
☆ 社会の形成者としての態度

児童生徒の学習意欲を高める手立てを考える

地域教育資源を活用した活動

行動変容を促すには？

自分事
体験
感覚的な認識
まとめ方
素材の質

みなさんの学校の地域資源と課題とは？

カリマネ・評価
学校教育目標の達成において
教科学習との関わり

行動変容に繋がる、学習の意欲を高めるには？

課題価値
興味・獲得・**利用価値**
単元デザインの**見直し**
教科 OR 探究
(目標・構成・発問・展開・教材・評価・チーム)
(成果物の再評価も)

教科横断による
深い学びに接近
することができる
のでは？

「教科意欲」 (R4学力・学習状況調査 (児童) 転載)

- Q49 国語の勉強は好きだ (←興味価値)
Q50 国語の勉強は大切だ (←獲得価値)
Q51 国語の授業の内容はよく分かる (←獲得価値)
Q52 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ (←利用価値)
Q53 算数の勉強は好きだ
Q54 算数の勉強は大切だ
Q55 算数の授業の内容はよく分かる
Q56 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
Q61 理科の勉強は好きだ
Q62 理科の勉強は大切だ
Q63 理科の授業の内容はよく分かる
Q65 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ

「教科意欲」 (利用価値) (TIMSS2019 中学校2年 転載)

- a) 数学を勉強すると、日常生活に役立つ
b) 他教科を勉強するために数学が必要だ
c) 自分が行きたい大学に入るために数学で良い成績をとる必要がある
d) 将来、自分が望む仕事につくために、数学で良い成績をとる必要がある
e) 数学を使うことが含まれる職業につきたい
f) 世の中で成功するためには数学について勉強することが重要である
g) 数学を勉強することで、大人になってより多くの就職の機会を得られる
h) 私の両親は、私が数学で良い成績をとることが重要であると思っている
i) 数学の成績が良いことは大切だ

課題解決の
際に？

地域教育資源を活用した活動が児童の学習意欲につながっているか

見直しの視点

- ① 深い学びにつながる活動になっているか
- ② 利用価値のある活動か
- ③ 児童の変容は見られるか
- ④ 他教科等との関連性は明確か

3 行動変容につながる学習意欲を高めるための見直し

① 深い学びにつながる活動か

- ・地域で行われているワカメ養殖は、家業や近所で手伝った経験があることや、食卓に上がることが多いことから、子供にとって身近な素材である。講話や体験を通して新たな発見や疑問、驚きが生まれ、自分事として落とし込むことができた。そこで得た課題を、自分の方法で調べながら地域に関心を寄せていく姿が見られた。
- ・シロウオ漁は、春になると川に仕掛けられている「ザワ」を目にしたり、「シロウオ祭り」でシロウオを見たり食べたりしており、身近な存在である。「何となく知っている」から、川の環境や海とのつながりなどへ興味を広げることができた。
- ・第5学年の学習で、山と海が抱える問題について学習を進めるが、第4学年の学習内容が第5学年での学習につながるため、山と川、海とのつながりについて考えを深められるよう、縦のつながりを意識したアプローチの仕方を工夫する必要がある。

見直しの観点
構造化
その一角に
利用価値

④ 各教科等との関連は明確か

各教科等との関連については、年間指導計画には明記されていない。各学年において、教科等とのつながりを確認し、教師の意識を高める必要がある。

【コンピテンシー・ベース】 ・(国語)調べたことをほうこくしよう ・(国語)お願いやお礼の手紙を書こう

・(算数)算数で読みとこう

【コンテンツ・ベース】 ・(社会)住みよいくらしをつくる「水はどこから」

・(理科)雨水のゆくえを地面のようす

2. 探究課題

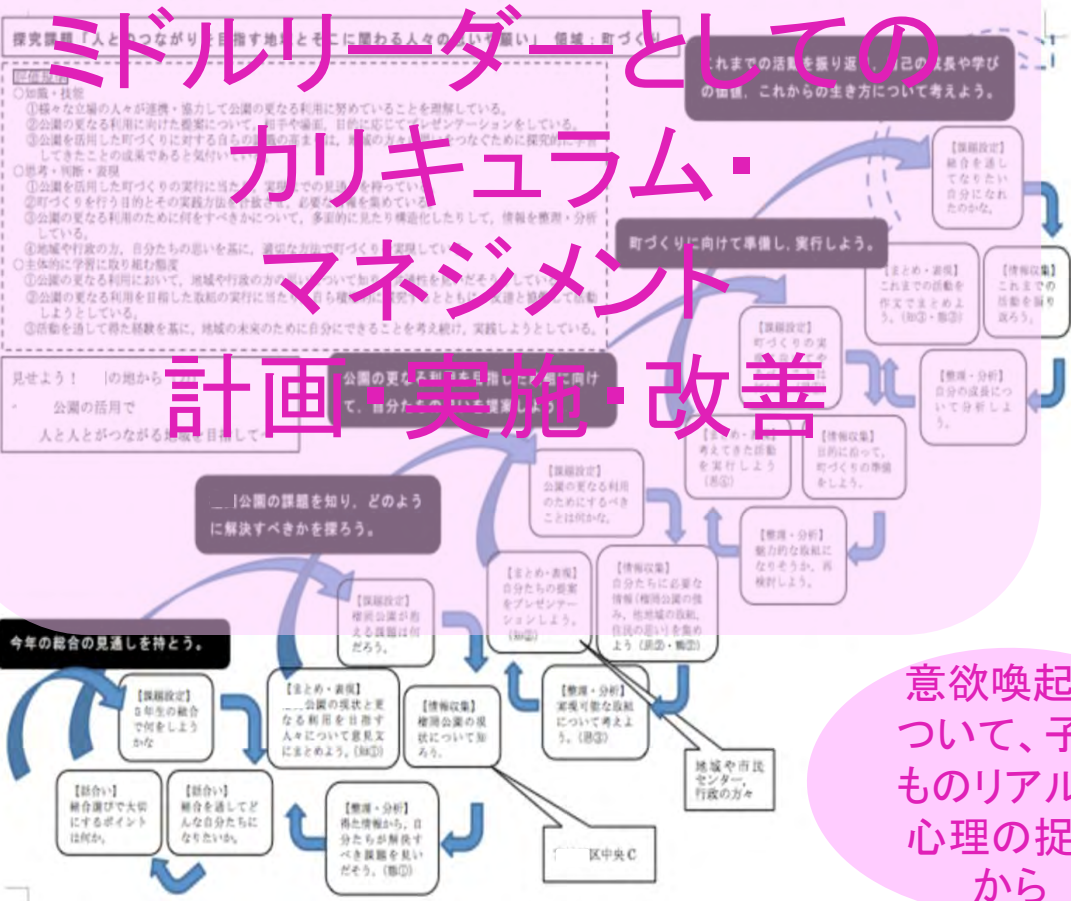
「人とつながりを目指す地域とそこに関わる人々の思いや願い」(70時間) 領域:町づくり

3. 単元の見通し

地域の活性化を目指した町づくりの実践を通して、地域の課題やその解決に向けて連携・協力している人々がいることを理解し、地域の一員として様々な立場の思いを踏まえた町づくりについて考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

4. 単元の評価規準 (主体的に学習に取り組む態度に絞る)

- ①公園の更なる利用において、地域や行政の方の思いについて知り、共通性を見いだそうとしている。(自己理解・他者理解)
- ②公園の更なる利用を目指した取組の実行に当たり、自ら積極的に探究するとともに、友達と協働して活動しようとしている。(主体性・協働性)
- ③活動を通して得た経験を基に、地域の未来のために自分にできることを考え続け、実践しようとしている。(将来展望・社会参画)



C児の作文シートの記述内容 ※一部抜粋

これを踏まえて僕達は、何かと...の結果、街の食卓・休憩スペース、クイブ...図書館やスポーツ...

木...が終わると、大...総合は1人でやるものではなくみんな...

【改善の方向性】

公園を活用したイベントの実施に向けて、自分たちの提案内容を学校支援地域本部、PTA、市民センター、公園課、まちづくり推進課にプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションを行うにあたり、子供たちは地域の方の声を知りたいという思いを持ったため、学年全体を対象に地域をよく知る方2名からお話をうかがった。

C児は、目的を明確に抑え、意欲的に活動していた子供である。しかし、作文シートの記述内容を見ると、プレゼンテーションの作成にあたり、) さん(まちづくり協議会の空間部長であり、社会実験を推進している方)の資料を基にしてはいるが、提案の根拠がその資料だけに頼ってしまっていた。C児のグループにのみではなく、これは全てのグループに言えることであった。

子供たちの疑問や関心は個別的である。そのため、より多くの地域の方をお呼びし、学級ごと、提案内容ごとのようにじっくり地域の方の声を聞き、議論する時間と場が必要であった。自分たちと地域の方々との思いを擦り合わせることで、プレゼンテーションに思いと厚みもたらされる。そうすることで、「自分たちは絶対にこれを実現したい」、「ここは譲れない」という気持ちの高まり生まれる。この経験がその後の子供たちの人生の糧となり、更なる意欲(利用価値)の向上に資することが考えられる。

このような分析から、昨年度の実践は子供たちに一層の学びの深まりをもたらすことが可能であったと言える。地域資源を活用した活動では、特に指導計画の評価、改善が求められる。

学校の文脈において、持続可能性を探る



[知識・技能] 身近な自然の現状や特徴、自然を守り継いできた人々の活動を知り、自然との共存について理解する。

[思考力・判断力・表現力] 環境問題と自分たちの生活との関わりについて考え、課題をつくり、情報を収集、整理し、適切な方法で表現する。

課題解決を織り込んだ年間カリキュラム表

		自然に親しもう① ～身近な自然について知ろう～ (1学期)				自然に親しもう② ～こもら～ (2学期)					
児童	総合的な学習の時間	環境問題について話し合おう 環境問題に関心を持つ。 市民の力で環境問題に取り組んだ歴史を知ろう 河川浄化運動、緑のハイキング運動	環境問題について調べよう 環境問題の原因や対策などを、情報収集手の隊を巡りながら調べる。	調べたことをまとめよう 課題に沿って調べたことを報告書にまとめる。	自分のできることを考えよう 初江の森環境保全に取り組む方々に向け、発表する。学習活動を振り返り、自分のできることを考え交流する。	森、与を観察しよう 身近な自然の現状と特徴を知り、自分たちにできることを考える。	ゲストティチャーに話を聞こう/自分で調べよう のはじまりは ふるさととの杜再生の活動	自分のできることを試行しよう 課題に対する解決策を考え、実践する。ゲストティチャーのアドバイスを参考に実践し、振り返る。	発信しよう ゲストティチャー、地域、保護者に発信する。身近な自然から地球規模で考える。		
	各教科との関連		国語 環境問題について報告しよう(7時間) 資料を活用して報告する 道徳 自然を愛護する 10.ふかふか一年			理科 5.台風と天気の変化 6.流れる水のはたらき 森の声タイム 組曲「」を歌おう	外国語 Check Your Steps2 地域のおすすしめを	道徳 郷土を愛する 28.親から子へ、そして孫へ 道徳 大自然の中の奇跡 33. 本松は 詰った			
		4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2・3月
教師	指導のポイント	導入用ワークシート Point! 年度初めに、今年度の総合的な学習の時間の見直しを持ち、市民センターとの打ち合わせを行い、ゲストティチャー等の調整をお願いします。	Point! 環境問題と自分たちの地域や生活とを結び付けて考えさせることで、より自分ごととして環境問題を捉えることが重要。			Point! 植物や地形等に着目させながら観察させる。枝打ちや間伐体験を行う。	Point! 自然環境を多面的に捉える。 *歴史的な視点(灌漑用水としての役割) *まちづくりの視点(わがまち緑の各所100選) *防災の視点(土砂災害を防ぐ) *間伐材の再利用 など	Point! 身近な自然への関わりを、地球全体を考える見掛けかりにする。			
	地域連携		*青葉まつり 宮城県保健環境センター、イフタニ水素ステーション			*野外活動(泉ヶ岳) *地域防災訓練	*与平衡沼清掃 森魅力発信プロジェクトの皆さん、百年の杜推進課	課題解決型用ワークシート 市民の森を創る会の皆さん			*授業参観

E教諭の取組・協働へ

子供と教師の「学び、伸び、喜び」レポート
令和1年度「栢江の森を受け継ごう 総合的な学習の時間(5年)」振り返り

【協働型学校評価到達目標】
自己有用感・自己肯定感を高める取組を通して、教科等の学習および特別活動に主体的に取り組むことができた」と実感できる子が80%以上になるようにする

困難に負けず、めあてに向かって努力し続ける子
課題意識を持ち、進んで学習に取り組む子
思いやりのある行動や適切な言葉遣いができる子

C教諭の取組
校内の共有・協働へ
お便りとして

担任と協働 ←サーバント・リーダーシップの発揮

さらに伸ばすために

令和5年度が始まって約1か月半。先生方には、各学級の教室訪問を快く受け入れていただき、また、子供たちの成長を教えてくださいました。感謝申し上げます。
子供たちからも、「こんなにきれいなノートが書けたよ」「算数が6冊も解き方を思い出したよ」「高学年になって〇〇委員会に入りました」「3年より朝早く起きて登校することができるようになった」と、うれしそうに話す子供たちと出逢います。
昨年度からの引き継ぎや、目の前の子供たちの実態をもとに、個々の、そして、集団の力をさらに伸ばすために、日々実践をなさっていることと存じます。
今年度も、先生方に御協力をいただきながら、各種調査等から見えてくる子供たちの実態、それを踏まえた実践の軌跡、その結果、変化した子供たちの姿を共有できればと存じます。

そろそろ各学年において、総合的な学習の時間が本格的にスタートする頃。今回は、「小ならでは」の実現、5年総合的な学習の時間の実践を振り返ります。今年度の各学年の取組をより良いものにするための一資料になることを願っています。

どんな学習をしてきたの？ 5年総合的な学習の時間

1学期は、広い視野で自然環境について考え、2学期はより身近な「森」とそれを守り育てる人との関わりを通して、自分たちができることを考え、それを発信する学習に取り組ましました。



どんな力が身に付いたの？ 子供たちのアンケート回答

学年が一つ上がった6年の4月に、先生に御協力をいただき、子供たちに「学習の振り返りアンケート」を実施することができました。
右図のように、子供たちそれぞれが感じる「森の魅力」を「知らせたい、伝えたい、つなごう」という目的意識を持って学習に取り組んでいたことが分かります。
また、誰に伝えたいかという質問には、「地域の方々」「下級生」などの複数回答が多く、相手意識も持って学習を継続していました。



子供たちは、自分自身でどんな力が身に付いたと認識しているのでしょうか。「4年生と比べて、できるようになったこと、考えが深まったことは何ですか」という質問に、子供たちは以下のように回答しています。

- ・自分で計画を立てて、進める力
- ・情報を集める力、詳しく調べる力
- ・友達を考えを聞いて、自分の考えを見直す力、自分の考えに生かす力
- ・工夫してまとめる力
- ・分かりやすく伝える力、発表する力、短く分かりやすく話す力

これらのことから、子供たちは、単独の中から問いを思いつき、自分で課題を立て、情報を集め、友達と協働しながら、まとめて表現するという「探究的な学習における学びの姿」に近づいたと実感していることが分かります。
5年生の学習を終えて1か月が経過したにも関わらず、子供たちが自身の伸びを上記のように表現していることに、5年生から6年生へのバトンが引き継がれ、前向きに進んでいるのを感じます。

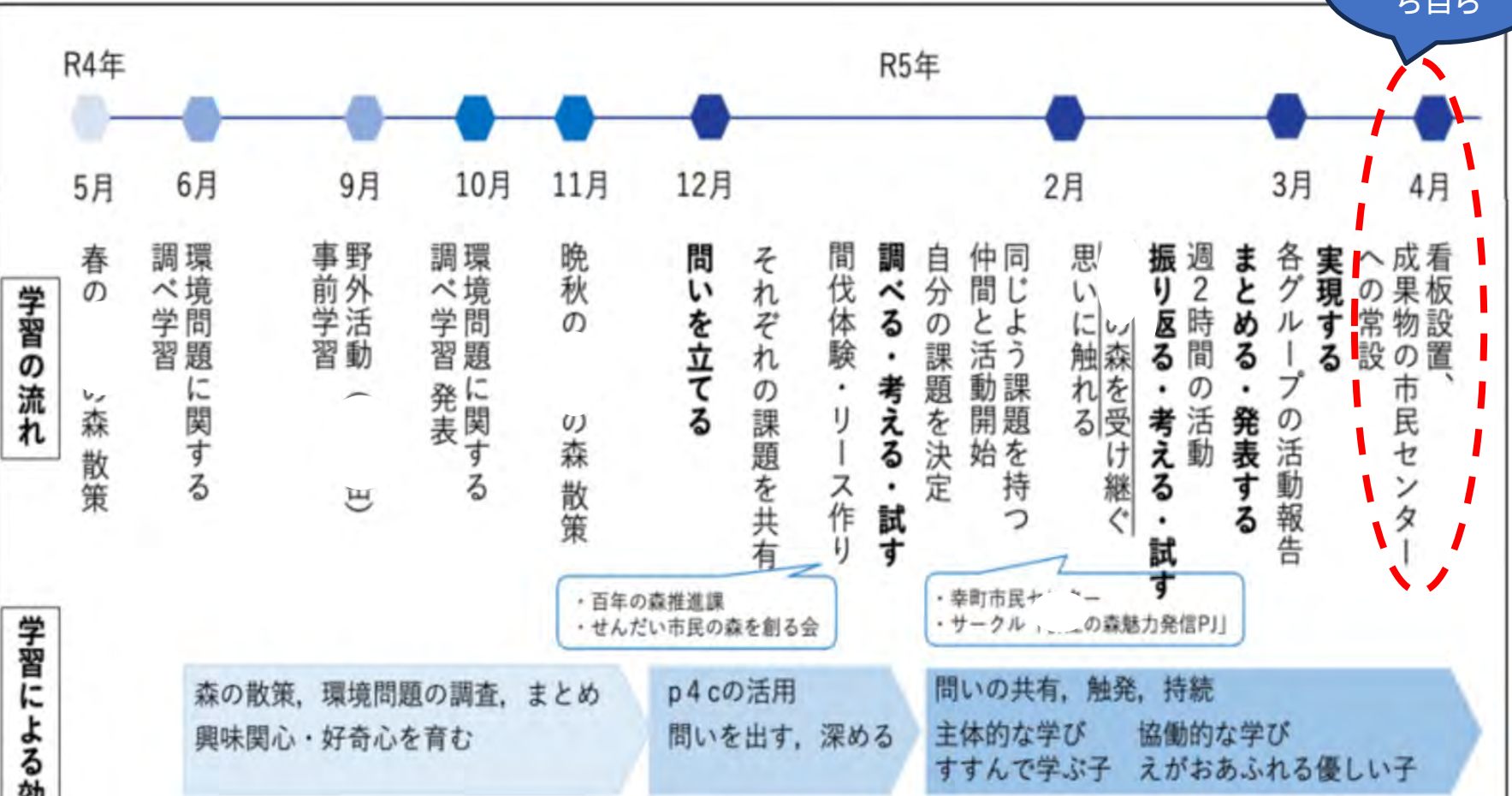
どのような成長が見られたの？ 実践者から見た子供の姿、指導の手立て

実践者である後藤先生から見た子供たちの姿と、指導で大切にしたこと、今後も大切にしていきたいことをお聞きしました。

- Q 子供たちの成長したところは？
グループでの活動では、一人一人が異なる役割を担い、互いを認め合いながら進んでいました。自己有用感が高まってたと感じています。
自分たちの思いが徐々に形になっていき、達成感を味わっていました。自分たちの可能性を実感することができたと思います。
- Q 指導で大切にしたいことは？
活動の計画を立てる時間をしっかりと確保しました。その計画で足りないと感じた部分には、私からアプローチをして、複数の選択肢を提示供たちに考えさせた。
質疑の振り返りも大切に、修正をして学習を進めるようにし、活動が始まれば、私は子供たちの決断の後押しをするだけでした。
- Q 今後も指導で大切にしたいことは？
1年生であっても「自分で決める力、自分たちで進める力」を育てることを大切に指導していきたいです。

子どもたちの成長＝教師たちのエンジンに

子どもたち自ら



・百年の森推進課
・せんだい市民の森を創る会

・幸町市民センター
・サークル、の森魅力発信PJ

効果(成長)の可視化 → 学校教育目標の実現 → 新学年へ

総合的な学習の時間(五年)ふり返り

五年生の「総合的な学習の時間」では、進んで学んだり、仲間と協力して活動したりする姿を見て、頼もしく感じました。その学習から少し時間が経ちましたが、ふり返りをして、六年生の学習につなげましょう。自分の活動を思い出しながら、答えましょう。

2 Aの森について答えましょう。

(1)あなたは、Aの森のことを「誰に」伝えたいですか。(複数あるときは、全部書きましょう)

例)地域の〇〇さん、家族の〇〇、〇年生、〇〇さん、〇〇先生など

(2)あなたは、Aの森の「何を」伝えたいですか。伝えたい内容をくわしく書きましょう。

(3)なぜ、(1)(2)のように考えたのですか。

3 地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思いますか。(当てはまる数字に○)

1 - 2 - 3 - 4

(1 思う 2 どちらかと言えばそう思う 3 どちらかと言えば思わない 4 思わない)

(3の質問で「1」「2」に○をつけた人に聞きます。)

4 なぜ、そう思いますか。

5 五年生の総合的な学習の時間全体をふり返って、四年生のころと比べて、「できるようになった」、「自分の考えが深まった」と思うことがあれば、書きましょう。

児童生徒の行動変容につながるSDGs教員研修とは

- ① SDGsについて多角的に考える
- ② 学校の課題解決と結びつけ、組織的な対応を考える
- ③ 児童生徒の学習意欲を高める手立てを考える
- ④ 学校の文脈において、持続可能性を探る

